

## 令和3年度第1回誰もが共に暮らすための市民会議における 「新しい生活様式における障害者への配慮に関する啓発」についての主な意見

### 【困りごとや配慮に対する意見】

#### 生活の場面に対する困りごとについて

・感染症対策として、施設で時間をずらして食事をするようになったが、知的障害のある方にとっては、施設でわいわい食事することが出来なくなったことを受け入れられず、不満を持っている。

・レスパイトのための施設を探すのが大変なので、地図上で施設を探せるようなアプリがあったらいいのではないか。

地図のような形式だと、視覚障害の方には使いづらくなってしまうため、障害に応じた配慮が必要ではないか。

・特に知的障害のある方は、キャッシュレス決済により、どのくらいお金が減っているかわからないので、金銭感覚を失う人が多い。アプリなどで、残高が図で見えるようなものがあるとよい。

・コロナ禍で非接触、マスクが外せないという状況にあるが、身体障害をお持ちの人は介助が必要である。

非接触を進めるために、単に無人化にすれば解決という話ではなく、障害特性によっては不便を被ることを発信していく必要がある。

・手話通訳者の電話だと本人と認めてくれず、電話を取り次いでもらえないことがある。手話通訳者を通して、本人確認ができるようにしてほしい。

・視覚障害のある人は3密回避や非接触などで困っている。スーパーマーケットなどセルフレジではなく人のいるレジを案内していただき、スムーズに会計ができた。

・動線を固定するためロープなど見えず、ぶつかることなどがある。声掛けいただき、案内してもらった。

・視覚障害のある人には非接触の会計が難しいため、コロナ禍における困りごとをスーパーマーケットや商店街などにも周知し、共有してもらいたい。

・新型コロナウイルスの流行当初は知的障害者施設において閉鎖等があった。現在は元に戻ったが、自粛していることも多い。マスクは表情がわからないなど困りごととしてある。元々制限のある中、さらに制限が課せられ、体力、機能、感情、外出に興味をなくすなど悪循環を起こしている。

・マスクは普段からしているが、聴覚障害のある人の集会などでは透明のマスクを着用している。透明のマスクに対して不安の声もある。

#### 情報へのアクセスについて

・聴覚障害のある人はコロナ禍で情報へのアクセスが十分にできない。

- ・聴覚障害のある人とのコミュニケーションにおいて、書けば伝わるというやり方は正しい情報が伝わらない。
- ・自粛など聞き馴染みのない言葉の意味を理解するのに苦労した。手話言語で伝えることが大事。
- ・マスクをしていると、聞こえない人にとっては、話をしているのかどうかすらわからない。コロナが長引き、最初は「自粛する」というだけの情報が、状況が変化し、情報量が増えるにつれ、情報を捉えきれない聴覚障害のある人が多い。
- ・70代の聴覚障害のある方でワクチン接種をしていない方がいた。本人は「来年の3月までに接種すればよい」と思っている。正しい情報が伝わっていない。
- ・パソコンは使えないし、メールは難しい。
- ・ZOOMや携帯、パソコンの使い方を教える場を作る必要があるのではないか。
- ・感染症対策としてオンライン会議が浸透したのに、公共施設にWi-Fi環境がないため、利用しづらい。情報保障として、Wi-Fiの整備を進めるべきではないか。
- ・全ての報道に手話があるわけではない。文字だけでは聴覚障害のある人が情報を十分理解することは難しい。
- ・職員や所属団体内で情報伝達・交換をしているが、所属していない人や地域との繋がりが無い人に情報が届いているのか、理解できているのか心配。
- ・市のHPでコロナ禍における困りごとを掲載したことは良いが、深い層に掲載してあるため見づらい。市報やSNSなどを利用して、HPへ誘導すると効果的であると思う。
- ・視覚障害者用にQRコードなどを活用し情報提供されている。視覚障害のある人には点字で情報提供すればよいといったステレオタイプの対応ではなく、さいたま市と協力してよい事例ができたと思う。

#### 医療・ワクチン・PCR検査等について

- ・視覚障害のある方に対し、ワクチン接種に関する郵送物には切り込みがあるので、大切なお知らせであるとの情報提供があった。視覚障害のある方用に電話対応などの情報提供もあり、これから送られてくる郵便物に関しても、注意しておくことができるので助かる。
- ・聴覚障害者団体と市との懇談会において、FAXでのワクチン接種の対応を可としてもらった。反面、予約した結果の返事が遅く、不安な状態でFAXの前でずっと待っている人もいる。
- ・さいたま市のワクチン接種は遅れている。入所施設の利用者や職員だけでなく、ヘルパーや手話通訳、相談員や通所施設の職員にも先行接種すべきではないか。
- ・精神科に入院している患者の退院が進まない。地域移行できるはずの人が、できなくなっている。
- ・ワクチンについて、正しい理解を持っていない人もいるため、情報弱者にタブレット

の操作方法をレクチャーした上で、ICT を活用した周知を行うと良いのではないかと。ICT の活用は、肢体不自由などにより、外出が困難な人が、外部との交流ができるチャネルになりうる。

- ・入所・グループホームでは PCR 検査が受けられるが、通所施設では受けられない。1 週間に 1 度とは言わないので、隔週で社会調査として受けられるようにしてほしい。こうすることで、不安感が取り除け安堵感が上がると思う。

- ・知的障害や発達障害のある方の中には、かかりつけ医がないという人もいる。ワクチンを接種するにしても、パニックになってしまう人もいるが、普段から特性などを知っているわけではない医師から、どの程度個別的配慮をしてもらえるのか懸念している。施設の中には、嘱託医が接種しても良いと言ってくれるケースもあり、接種券が早く届けば、そういった対応も可能である。

- ・重度の知的障害のある方はワクチンをどこで接種したらよいのか。施設内の健康診断でも、採血などはとても大変な状態。集団接種会場などでの接種には無理がある。施設内での接種が好ましいと思う。

- ・ワクチン接種は知的障害のある方の場合、特に配慮が必要になる。市でも知的障害のある方に対し特別に考えてほしい。

- ・施設には複数の市から利用者が集まっている。同じ施設内でも、ワクチン接種の状況に差が出ている。

- ・知的障害のある方がコロナとは別の病気で入院した際、面会もできず、食事を摂らなくなった。親が頼み込んでも病院は面会を許可してくれず、熱があっても退院させた。家に戻ると食事も摂れるようになった。感染防止は仕方がないが、世の中の規制に合わせるのではなく、臨機応変に対応してほしい。

- ・マスクが必須となる中、知的障害のある方や発達障害のある方にはマスクが無理な方もいる。医療機関に入ることもできず、親が薬をもらうだけで受診もできない方がいる。

- ・障害のある方の親の不安として、親が感染してしまった際、障害ある子供はどうしたらよいのか。そのような場合に受け入れてくれる施設は 2 か所しかない。

### 交流などについて

- ・事業が何もできない。
- ・早く皆で何かやりたい。寂しい。
- ・いつまで続くのか相当しんどい。
- ・例会が対面で開催できなかったため、紙面により開催したが十分ではなかった。

### その他

- ・地域の人々とのネットワークがないことが課題。
- ・聴覚障害があり、手話で情報を得ているが、手話を見続けることは大変である。少数

派のため、休憩を入れてほしいと言いくい。

### 【新しい生活様式での困りごとの啓発に対する意見】

- ・純粹に偏見なく向き合い、上から目線にならないようにすることが必要。
- ・市報やHPで啓発活動をするのはいいと思う。その他に、聞こえない人と近所の人や民生委員との情報ネットワークが必要になると思う。
- ・社会調査の中で、家族に障害のある人がいることを書かない人や、知られるのが嫌な人が多い。しかし、民生委員として家を訪ねるととても喜ばれたので、接し方で家族の反応も変わると思う。
- ・民生委員の地域の見守りの対象は単身世帯や高齢者が中心で障害のある人も気にはしているものの、あまり入り込まないようにしていることがある。民生委員ともっと連携してもらうことが必要。
- ・この状況下を住民自身どうしたいか、市民が直接話し合い意見を言う場があってもよいのではないか。例えば、障害を持つ当事者が集まり、どういった対策が必要で、どのような施策があったらよいかを話し合い、発信していく必要があると思う。
- ・啓発の前に、困りごとの意見をもっと出し合い、議論することが必要。